

「なぜ、ヒバクシャを語り継ぐのか」

～ノーベル平和賞 ICAN を支えたキャサリン・サリバンさんとの対話～

キャサリン・サリバンさん



すべてのイベントは入場無料、通訳付きです。

関西会場

講演会 日時 2018年1月19日(金)
時間 13:45~15:45
京都外国語大学 森田記念講堂

ワークショップ 日時 2018年1月20日(土)
時間 10:00~17:00
京都外国語大学 4号館 432 教室

関東会場

講演会 日時 2018年1月26日(金)
時間 19:00~21:00
文京シビックホール小ホール(東京都文京区)

ワークショップ 日時 2018年1月27日(土)
時間 10:00~17:00
横浜国立大学 教育7号館202号室

【申し込み方法】

講演会は申し込み不要です。ワークショップ参加希望の方は、以下のいずれかの方法で事前申し込みをお願いします。応募者多数の場合は抽選いたします。締め切りは1月7日です。電話による受付はしていません。

★URL か、QR コードからのお申し込み

下記のURL、またはQRコードを使い、申し込みフォームに必要事項を記入してください。

関西会場

<https://goo.gl/forms/5yXGUyKdUnzBeNAz2>

関東会場

<https://goo.gl/forms/wAIkylsUcZbV8Xbb2>



★メールかFAXによるお申し込み

主催団体の1つ「被爆者証言の世界化ネットワーク(NET-GTAS)」(net-gtas@kufs.ac.jp、またはFAX075-322-6727)あて、ワークショップ会場、氏名、所属、連絡先を付記し、メールまたはFAXでお申し込みください。

お問い合わせ先

- 被爆者証言の世界化ネットワーク(NET-GTAS)事務局(京都外国語大学内) ☎ 075-322-6054 (内線 6755)
- *原則 月曜~金曜 9:00~17:00、2017年12月23日~2018年1月4日迄は休み net-gtas@kufs.ac.jp
- 〒305-8571 つくば市天王台1-1-1 筑波大学 人文社会エリア支援室 小平 裕太 TEL:029-853-5642 FAX:029-853-6315 jinsya-kaikai@un.tsukuba.ac.jp

主催：若者に被爆体験を語り継ぐプロジェクト(「被爆者証言の世界化ネットワーク(NET-GTAS)」)、筑波大学「記憶の継承と言語」プロジェクト、横浜国立大学 高橋弘司研究室

★関西会場

共催：学校法人 京都外国語大学
後援：筑波大学、横浜国立大学、広島平和文化センター、毎日新聞社、共同通信社、京都新聞、朝日新聞社京都総局、KBS 京都

★関東会場

後援：筑波大学、横浜国立大学、京都外国語大学、広島平和文化センター、毎日新聞社、共同通信社、京都新聞、朝日新聞社京都総局

2017年7月、核兵器の保有や使用などを初めて法的に禁じた「核兵器禁止条約」が国連本部で採択されました。多くの外交官たちが広島、長崎の被爆者による証言に「心を揺さぶられた」といいます。

その採択に向け「主導的役割を果たした」として、今年度のノーベル平和賞を受賞した国際NGO「核兵器廃絶国際キャンペーン」(ICAN)。その「被爆者担当」として世界に被爆体験を広めてきたアメリカ人平和活動家、キャサリン・サリバンさんを招き、関東と関西で講演会やワークショップを開催します。

サリバンさんは被爆者とともに、アメリカの高校生3万人余りに核兵器の非人道性を訴えてきました。北朝鮮の核の脅威が高まる今こそ、サリバンさんの思いに触れ、改めて被爆体験を語り継ぐ意味を見つめてみませんか。

講演会・ワークショップのご案内

- ◆講演会では、約30年に渡り核兵器廃絶の運動に尽力してきたキャサリン・サリバンさんによる講演、被爆者の証言、市民や学生との対話などがあります。
- ◆ワークショップでは、丸1日かかりの体験型勉強会を行います。サリバンさんや被爆者とともに、核兵器がもたらす被害、核廃絶に向けた問題点や道程などについて幅広く学びます。

キャサリン・サリバンさんとはどんな人？

世界的な平和教育家、活動家。米国・コロラド州立大学卒、英国・ランカスター大学で博士号を取得。国連軍縮コーディネーターなどとして、核廃絶運動に約30年に渡り関わる。NGO「Hibakusha Stories」プログラム・ディレクターとして、2008年から2015年までの8年間、広島、長崎の被爆者たちを米国に招き、ニューヨークの高校など数百校で、高校生ら延べ3万人余に「被爆体験」を聞かせる証言活動を展開した。「Hibakusha Stories」は、2017年度ノーベル平和賞が決まった国際NGO「核兵器廃絶国際キャンペーン」(通称・ICAN)の傘下団体。2017年7月、「核兵器禁止条約」の国連採択にあたり、ICAN国際運営委員のNGO「ピースボート」共同代表、川崎哲さん、カナダ在住の被爆者サーロー・節子さんとともに、各国代表らへの働きかけに尽力した。近年は原爆投下を決断したトルーマン大統領の孫、クリフトン・ダニエルさんと一緒に核廃絶運動を展開したこともある。ニューヨーク在住50歳。

平和学の父、ヨハン・ガルトゥング博士からの応援メッセージ

One of the key events in recent human history was the atrocious nuclear bombing of Hiroshima-Nagasaki. There are still witnesses, alive. We must listen to their testimony in the significant events of January 2018, absorb it, and even more firmly decide, NEVER MORE HIROSHIMA-NAGASAKI!! (最近の人類史の重要な出来事の1つに、広島、長崎への非人道的な原爆があります。その目撃者はまだ生きています。私たちは2018年1月開催の重要なイベントで、被爆者の証言に耳を傾け、自分たちのものと受けとめ、「広島、長崎(の悲劇)」を決して繰り返さない」と改めて強く決意しなければならないのです = 日本語訳・主催者)

被爆者証言の世界化ネットワーク(略称 NET-GTAS)とは？

京都外国語大学に事務局を置く国際的な市民団体。広島・長崎の原爆で生き残った被爆者が目撃した体験証言を多言語に翻訳し、世界の人々に母国語で伝える活動を続けている。2014年1月に設立後、会員は大学教員、高校教師、翻訳家、社会人、主婦、大学生など190人を超える。これまでに英語はもとより、中国語、韓国語、ロシア語、フランス語、ドイツ語など100本を超える翻訳作品を完成させ、国立広島原爆死没者追悼平和祈念館に納品してきた。また、核拡散防止条約(NPT条約)再検討会議にあたり、日本原水爆被害者団体協議会(略称・日本被団協)からの委託で被爆体験をまとめた証言集を英訳、各国代表への配布に貢献するなど「世界を視野に入れた被爆体験の継承」に取り組んでいる。



ICANへのノーベル平和賞授賞式後、祝福の市民や関係者に向かって手を振るサーロー・節子さん(向かって左)とICAN事務局長のペートル・フィンさん(向かって右)＝オスロのホテルで、2017年12月10日。撮影 高橋弘司



ノーベル平和賞授賞式後に行われた恒例のたいまつパレードに、広島、長崎の被爆者らも参加、ICANの授賞を祝った＝オスロ市内で、2017年12月10日。撮影 高橋弘司

★京都外国語大学へのアクセス(講演会・ワークショップ会場)

[京都市右京区西院笠目町6]

- ・JR京都駅烏丸口から市バス28系統、京都外大前下車
- ・阪急京都線西院駅下車、徒歩15分
- ・市バス西大路四条 3、8、28、29、67、69系統京都外大前下車

★文京シビックセンター(東京講演会会場)へのアクセス

[東京都文京区春日1-16-21 文京シビックセンター2階小ホール]

- ・東京メトロ丸ノ内線・南北線 後楽園駅下車5番出口(直結)
- ・都営地下鉄三田線・大江戸線 春日駅下車連絡口直結

★横浜国立大学(ワークショップ会場)へのアクセス

[横浜市保土ヶ谷区常盤台79-2]

- ・JR横浜駅西口バスターミナル10番から浜5・浜10で岡沢町下車徒歩5分